（別添２）

No.	3
策定年月	令和３年５月
見直し年月	令和５年５月

麦・大豆産地生産性向上計画
宮城県大和町産地
（作成主体：大和町地域水田農業推進協議会）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

大和町は，全耕地面積に対して主食米の作付割合が約64.2%を占める水田地域である。
近年，主食用米の国内需要が減少する中で，将来を見据え，輸出用米や加工用米等の新規需要米の生産拡大，園芸品目の導入等と併せて，戦略作物である麦・大豆の生産を拡大する必要がある。
麦・大豆の生産拡大にあたっては，担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ，効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。
また，管内のJAと情報を共有しながら実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに，耐病性品種等への切り替えを実需の理解を得ながら早急に進め，単収の安定を実現する。
現在，大和町においては，水田収益力強化ビジョンや大和町産地推進計画により水田フル活用の推進に取組んでいるが，本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し，農業の更なる活性化を図っていく。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

・麦については，本地域で生産している品種シュンライ及びシラネコムギは，全量（シュンライ35トン，シラネコムギ72トン）が加工用として，県内外の製粉企業等に販売されているが，実需からの要望を生産量が満たしておらず増産を図る必要がある。
・大豆については，生産の7割を占める品種ミヤギシロメは，全農分として実需者「武陽食品株式会社，良元商店，三倉産業株式会社」へ豆腐等の加工用として販売されているが，近年，管内においては天候不順や獣害により安定供給が達成できておらず，町として獣害対策に支援しつつ，県で奨励する品種の中で，大和町の環境に合った品種をJA及び農業改良普及センターと連携を図りつつ加工適性が高く収量の安定した品種へ切替える必要がある。

（2）生産における現状と課題

近年，作付面積は麦については令和2年度は集落営農組織から法人への以降に伴い，作付けを減少する形になったが令和3年度は令和元年度程度にまで持ち直し，大豆については横ばい，単収は低下傾向となっている。
単収低下の原因として，作付頻度の増加による地力低下等が考えられ，収量を向上させるためには，土壌診断に基づいた地力の回復，施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。
また，排水不良も単収低下の大きな要因となっており，改善が必要となっている。さらに，近年は，担い手への農地の集約が急速に進み，1農家あたりの作業面積が拡大することにより，適期作業の逸失等が起こり，単収及び品質の低下を引き起こしており，スマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要で，一部の地域では団地としてブロックローテーションでできているが，その他は固定圃場の取組みのため団地化率は変わっておらず，改善が課題となっている。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シラネコムギ	(18) 18	(17) 17	(18) 18	(228) 228	(203) 203	(394) 394	(42) 42	(35) 35	(72) 72
	夏黄金	(−) −	(−) −	(0.3) 0.3	(−) −	(−) −	(102) 102	(−) −	(−) −	(0.3) 0.3
大麦	シュンライ	(64) 64	(65) 65	(29) 29	(52) 52	(103) 103	(123) 123	(33) 33	(67) 67	(35) 35
	ホワイトファイバー	(12) 12	(15) 15	(11) 11	(92) 92	(128) 128	(217) 217	(11) 11	(20) 20	(25) 25
作物計		(94) 94	(97) 97	(59) 59	(92) 92	(124) 124	(225) 225	(86) 86	(121) 121	(132) 132

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	ミヤギシロメ	(93) 93	(94) 94	(98) 98	(112) 112	(64) 64	(70) 70	(104) 104	(60) 60	(69) 69
	タチナガハ	(33) 33	(28) 28	(33) 33	(83) 83	(143) 143	(176) 176	(28) 28	(40) 40	(58) 58
	タンレイ	(10) 10	(−) −	(−) −	(198) 198	(−) −	(−) −	(20) 20	(−) −	(−) −
作物計		(136) 136	(122) 122	(131) 131	(111) 111	(82) 82	(97) 97	(151) 151	(100) 100	(127) 127

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シラネコムギ	3.4	18.4%	3.4	20.0%	3.4	18.7%	
	夏黄金	−	−	−	−	0.0	0.0%	
大麦	シュンライ	5.7	8.9%	5.7	8.8%	5.7	19.9%	
	ホワイトファイバー	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	
作物計		9.1	9.6%	9.1	9.4%	9.1	15.5%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	ミヤギシロメ	37	40.0%	35	37.3%	36	36.8%	
	タチナガハ	9	27.7%	12	42.9%	13	40.0%	
	タンレイ	4	40.6%	−	−	−	−	
作物計		50	37.0%	47	38.6%	49	37.6%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

宮城県水田麦・大豆産地生産性向上事業実施要領においては，宮城県で推進する団地の基準は，平坦地（中山間地域以外の地域）で「4ha以上」とし，農地の集約に制限がある中山間地においては「1ha以上」としている。
当地域は中山間地であることから，「1ha以上」の農地を団地とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。
※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

３．課題解決に向けた取組方針・計画

（1）取組方針

①需要に応じた生産と販売の実現
　シラネコムギは，72トンが麺用として出荷されているが，実需から増産の要望があることから，40haに拡大して160トンの生産を目指す。中山間地域でも，シラネコムギが農協を通して麺用として出荷されているが，実需からの需要も多いホワイトファイバーに品種転換する。ミヤギシロメ及びタチナガハは，豆腐をはじめ主に加工用として127トンが出荷さているが，実需から増産の要望があることから，160haに拡大して320トンの生産を目指す。麦・大豆ともに，JA及び農業改良普及センターと連携をとりながら，優良品種の中から中山間地域や平坦地帯それぞれに適した品種を導入しながら，農研機構・実需者・生産者による栽培・加工適性評価を進めるとともに，生産計画を作成する。
②団地化の推進
　ほ場が点在している現状であるので，人・農地プランや中間管理機構関連基盤整備事業，農地耕作条件改善事業による農地の集積と推進を図りつつ，麦・大豆の団地化に向けた話し合いを実施し，土壌・排水条件・作業の効率化，収量の安定性等に配慮した団地化に向けた計画を産地において作成し，導入した機械で適期作業を実現していく。
③土づくり
　土壌に起因する低収要因の改善に向けて，麦・大豆作付けほ場の土壌診断と，その結果に基づく施肥等の土づくりに向けた取組を検討していく。
④排水改良
　収量及び品質の向上のための湿害対策である排水の改善に向けては，吉田地区においては中間管理機構関連基盤整備事業による，計画的な暗渠排水の設置，区画整理を進めるとともに，大和町農業環境整備事業等を活用し，農地や農業用施設の簡易な排水対策等を進める。
⑤生育後期重点施肥
　収量の安定のために，生育後期に生育状況を見て重点的に施肥を行う。
⑥機械の導入
　コンバイン等を導入し，適期収穫を実施する。
⑦新たな需要の拡大
　町内立地の食品加工業者へ地場産活用の働き掛け等を行う。また，宮城大学と連携し，新たに商品開発を行うほか，農商工との連携による六次産業化の促進を図る。

※　①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

（2）計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産（現状）						令和9年産（目標）						備考
		面積（ha）		単収(kg/10a)		生産量（t）		面積（ha）		単収(kg/10a)		生産量（t）		
小麦	シラネコムギ	(18)	18	(394)	394	(72)	72	(40)	40	(400)	400	(160)	160	
	夏黄金	(0.3)	0.3	(102)	102	(0.3)	0.3	(8)	8	(400)	400	(32)	32	
大麦	シュンライ	(29)	29	(123)	123	(35)	35	(40)	40	(300)	300	(120)	120	
	ホワイトファイバー	(11)	11	(217)	217	(25)	25	(22)	22	(300)	300	(66)	66	
作物計		(59)	59	(225)	225	(132)	132	(110)	110	(344)	344	(378)	378	

作物名	品種名	令和元年産（現状）						令和8年産（目標）						備考
		面積（ha）		単収(kg/10a)		生産量（t）		面積（ha）		単収(kg/10a)		生産量（t）		
大豆	ミヤギシロメ	(98)	98	(70)	70	(69)	69	(100)	100	(200)	200	(200)	200	
	タチナガハ	(33)	33	(176)	176	(58)	58	(40)	40	(200)	200	(80)	80	
	タンレイ	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(20)	20	(200)	200	(40)	40	
作物計		(131)	131	(97)	97	(127)	127	(160)	160	(200)	200	(320)	320	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産（麦においては播種）する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

② 団地化

作物名	品種名	令和2年産（現状）		令和9年産（目標）		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
小麦	シラネコムギ	3.4	18.7%	22.0	55.0%	
	夏黄金	0.0	0.0%	4.0	50.0%	
大麦	シュンライ	5.7	19.9%	16.0	40.0%	
	ホワイトファイバー	0.0	0.0%	8.0	36.4%	
作物計		9.1	15.5%	50.0	45.5%	

作物名	品種名	令和元年産（現状）		令和8年産（目標）		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
大豆	ミヤギシロメ	36.2	36.8%	48.0	48.0%	
	タチナガハ	13.2	40.0%	20.0	50.0%	
	タンレイ	－	－	8.0	40.0%	
作物計		49.4	37.7%	76.0	47.5%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。
※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産（麦においては播種）する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）
※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。
※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。